

紹介

林陸朗 著

『奈良朝人物列伝』

——『続日本紀』薨卒伝の検討——

本書は、『続日本紀』の注釈に取り組んできた著者が、『続日本紀』掲載の伝記について『日本史籍論集』上、吉川弘文館一九六九、『続日本紀』の功臣伝について『続日本古代史論集』中、吉川弘文館一九六九などの『続日本紀』の薨卒伝に関わる著者の論文と関連して、薨卒伝の部分に関わる注釈と考察をまとめようと試みた一冊であり、序説と、それに続く『続日本紀』の薨卒伝の検討からなる。

まず「序説」『続日本紀』の薨卒伝について——において、『続日本紀』全体を通じて、薨卒伝について概観することから始めている。『続日本紀』の薨卒記事は、第一に薨卒の事実のみ記載するもの、第二に薨卒の事実と係累を記載するもの、第三に係累の記載に加え伝記を記載するものに分けられる。本書の副題にもなっているいわ

ゆる薨卒伝に当たるのは第三の分類であり、恣意的な取捨選択を行なった結果ではなく、『続日本紀』にみえる五十四例の薨卒伝すべてを検討する。このような薨卒伝の分析を通じて薨卒伝の全体の傾向を見通すとともに、そこから『続日本紀』の編纂過程や意図という大きなテーマにも言及している。

続いて、序説で大略をみた文武天皇四年三月己未条の道昭に始まり延暦九年十月乙未条の佐伯今毛人に至るまでの『続日本紀』にみえる五十四の薨卒伝について、個々に詳しい検討がなされている。紙幅の都合上、五十四例の薨卒伝すべてを紹介することはできないが、その一部を挙げると、

行基、光明皇后、鑑真、藤原仲麻呂、藤原百川、淡海三船、大伴家持などの高校日本史でも取り上げられる人物から、高丘比良麻呂、国中公麻呂、大津大浦、飯高諸高、藤原百能などのあまりその生涯をうかがい知ることのできない人物まで、多彩な経歴を持つ人々があり、奈良時代の政治の中心を担った人物だけではないバラエティー豊かなものとなっている。これらの薨卒伝をそれぞれについて現代語訳、訓読文、原文、語句解説、考察が付されている。現代語訳、

語句解説は丁寧であり、内容は薨卒伝の対象となっている人物の出身氏族の解説、官歴の追跡などから始まり、政治的な背景にまで考察が及ぶ。さらに個別の事例の検討に加えて、『続日本紀』の成立過程に関わる問題、また『続日本紀』にみえる「長屋王の変」や「藤原仲麻呂の乱」などの政治的事件に関わる諸問題、さらには皇親賜姓や奈良時代における尚侍などの個別のテーマや、語句解説に関連した細かな問題点についても触れられている。このように考察の対象は多岐にわたっており、一般的な概説から専門的な問題まで幅広く取り上げられている。

本書は『続日本紀』にみえる薨卒伝を検討するという多様な個別事例の検討であると同時に、人物の考察にとどまらない多彩な内容を持ち、本書全体を通じて、『続日本紀』にみえる奈良時代への理解を深めることができる。『続日本紀』についてだけでなく、そこからうかがうことのできる奈良時代史についての基本書といえよう。

(A5判 四六八頁 二〇一〇年五月)

思文閣出版 税別七〇〇〇円)

(西田純 京都大学大学院文学研究科修士課程)